

# 図書館

としょだより

## だより

### 問い合わせ先

泗水図書館 ☎0968 (38) 6866  
 中央公民館図書室 ☎0968 (25) 1672  
 七城公民館図書室 ☎0968 (25) 1580  
 旭志公民館図書室 ☎0968 (37) 3111  
 内線303

### 閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日  
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日  
 七城公民館図書室 日曜日・祝日  
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>



絵本コーナーにはいろいろな種類の絵本がたくさんあります。座ってゆっくりと絵本を見るスペースもありますので、ぜひお越しください。  
 (中央公民館図書室)

## 新着・お薦め図書

### 泗水図書館

親鸞 激動篇 五木寛之 著  
 おなかほっぺおしり 伊藤比呂美 著  
 恋物語 西尾維新 著  
 二流小説家 ディヴィッド・ゴードン 著  
 スティーブ・ジョブズ I・II アイザックソン 著  
 ミツ バルテュスによる四十枚の絵 バルテュス 著  
 チ・カ・ラ イングリッド・ロウ 著  
 トントントンをまちましよう 鎌田暢子 著

### 中央公民館図書室

磯野家の相続税 長谷川裕雅 著  
 斬新! カフェごはん 金子真澄 著  
 恋愛検定 桂望実 著  
 モナミは世界を終わらせる? はやみねかおる 著  
 おこさまランチランド 丸山誠司 著

### 七城公民館図書室

歪 堂場瞬一 著  
 ポレポレやまのぼり たしろちさと 著

### 旭志公民館図書室

ほまれ 澤穂希 著  
 悪い本 宮部みゆき 著

### 獣の奏者

私が、1番おすすめの本は、「獣の奏者」です。  
 10歳の少女、エリンは、母親と二人暮らしです。母は、凶暴な生きものである鬮蛇の世話をしています。エリンは、その鬮蛇に触れたいと思っています。しかし、母は、「鬮蛇は、恐ろしい生き物で、おまえの頭から腹まで、一口でかみ裂いて、飲み込んでしまうわ」と言い、絶対にだめだ、と言います。



菊川綾乃さん (水源小6年)

### 上橋 菜穂子 作

次の日、刑が執行され、エリンは、母の知人と暮らすようになりました。エリンは、幼い時に母を亡くしたのに、悲しみを乗り越えたところが、すごいと思いました。  
 その後、決して、人に慣れない、また、慣らしてはいけない獣と共に生きていく展開となります。  
 ぜひ、読んでみてください。

## 耳より情報

### 図書館で展示をしてみませんか?

館内のレファレンスコーナーを使って展示する、市民の皆さんの写真や絵画・手芸作品を募集しています。

(泗水図書館)



### 住所や氏名が変わった時は手続きをお願いします

住所や氏名が変わった時は、手続きが必要です。各図書館(室)へ現在お持ちの図書館利用カードと新しい住所や氏名が確認できるものを持ってきてください。また、電話番号が変わった時も、届出が必要です。窓口へお知らせください。

市外に転出の場合で、市内に通勤・通学されていない時は、カードは返却していただくことになります。

ご協力よろしくお願いします。

### 万句の里俳句会 1月例会

天焦がし大地を焦がし大どんど 岩木 敬治  
 冬桜跡方もなく散り急ぐ 打出 貞  
 寒林は音も立てずにひそと立つ 野中 君枝  
 庭のものの活け新春の床となる 隈部 輝子  
 老ひゆけば春待つ心一途かな 田島 房子

### せせらぎ俳句会 1月例会

進学や就職にも触れ初電話 藤本 邦治  
 氏神に遠き祖しのび初詣 村山 教恵  
 下手なるも添書き嬉し年賀状 五丁 義昭  
 除夜の鐘聞きて我が年数へをり 藤本アツ子  
 ありがたく丁戴したりお年玉 渡辺 大寿

### 旭志文芸俳句会 1月詠草

我が庭も雑草園か冬うらら 水谷 ミネ  
 「おはよう」と赤手袋の子等登校 芹川のり子

### 七城短歌会 1月詠草

木枯らしや大杉の枝振り落とし 中尾ヨシコ  
 結局は炬燵に納まる家族会 東 芳子  
 パンジーを庭に植え替え春待てり 芹川 蓉子  
 やっぱ無理 金で動かす人じゃ無ア 狩野 本六  
 勇み足 原稿通り言わんけん 窪田 明德

### 肥後狂句桜会 1月例会

春の月 残業しよるほととぎす 田中 孝幸  
 よか年ごろ マスコミからも騒がる 田中レイ子  
 今度から ノックしてから開けにゃんぞ 田尻 浩風

### 肥後狂句水笑会 1月例会

着飾って 楚々と歩けぬ草履履き 続 義昭  
 初日の出 我が家でおごじいっちょ 井手 水光  
 初日の出 待てど暮らせど出なはらん 御手洗三代  
 まいっとき 様子見てからプロポーズ 平井 江彩  
 冷え込もうで 飯どき誰も起きてこん 山隈 好茶

### 里短歌会 1月詠草

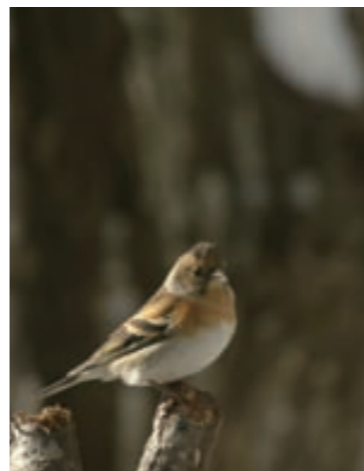
大空を鴉が鳴きつつ飛んでゆく我に 元氣を出せという如 松岡ミチエ  
 赤く燃えたつる夕日に恙なく野に立つ 高木 精  
 二人して歯医者椅子に並びいる夫のうがいにもさそわる 緒方 寛子  
 泊まりいるホテルで書初め大筆で安 岩津 涼子  
 病む日まで夫が持ちいし財布なり移り 香もとめる掌のなか 下川 つぎ

### 菊池短歌会 2月詠草

七草粥の出番待ちある芹なずな青々 松本 幾代  
 茂る裏庭占めて 初春の光やわらに身に満ちて病みある 吾の心ふくらむ 松岡 節子  
 消防士農の担い手それぞれに三十年 経し生徒らの逞し 林 淑子  
 古里を年の初めに訪ひて嬰兒抱けば 温きつながら 川口 敦子  
 被災地の復興の酒の初しぼり涙も汗も 願ひも絆も 宮本 淑子

### 里短歌会 1月詠草

階ひとつのぼりて物干すペランダに 川の音聞く鳥の声聞く 中原ちえ子



いつ迄の余生か知らず重ねゆくひと 日一日の重さ確かさ 山下 菊代  
 慌ただしき一日は昏れて一杯のお茶に 寝れぬ夜とはなりぬ  
 冬空に心吸はれてあたりけり折から 散るふ落葉ひとひら 余語やす子  
 井戸端に餅米洗へばメールより早き 小鳥か寄りきて突つく 岩木 妙子

# 文芸 きくち